



AKITA

〔6月〕

県内経済

概況

県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響などから、厳しい状況にある

電子部品の生産は弱含みの動きとなっているほか、機械金属、木材は大幅に落ち込んでいる。建設は、公共工事が増加傾向で推移しているが、住宅着工は弱い動きが続いている。個人消費も弱い動きとなっている。雇用情勢は改善の動きが弱まっている。

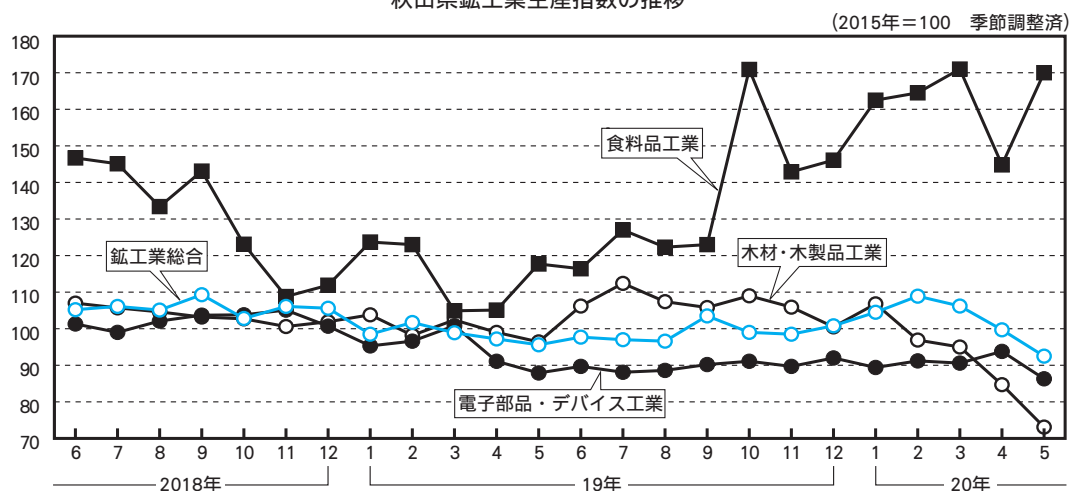
産業別の動向では、電子部品の生産額は、車載向けが大幅に減少し、2か月連続で前年を下回った。機械金属の生産額は、輸送機械で世界的な自動車販売の落ち込みから減産の動きが続き、5か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板(5月)、製材品ともに3か月連続で前年を下回り、生産調整が続いている。公共工事請負額は、5か月連続で前年を上回り、年度累計でも前年を上回って推移している。地元大手(12社)の建設受注額は、民間工事で大口受注があり、7か月ぶりに前年を上回った。住宅着工は、給与住宅(58戸)の着工が全体

を押し上げ、3か月ぶりに前年を上回ったが、基調としては弱い動きが続いている。個人消費は、小売店販売額(5月)が3か月ぶりに前年を上回ったものの、新車乗用車販売台数は9か月連続で前年を下回り、全体として弱い動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.04ポイント低下の1.24倍となった。新規求人数は前年比6.9%減となり、14か月連続で減少した。事業主都合離職者数は66.9%増となり、3か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は5件、負債総額は8億2,400万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

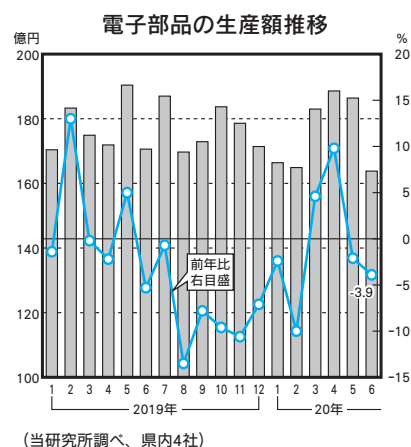
生産額、2か月連続で前年比減少

6月の生産額は前年比3.9%減と2か月連続で前年実績を下回った。

スマートフォンを含む5G関連製品は増加傾向にあるものの、車載向けは新型コロナウイルス感染拡大の影響等で世界的な販売低迷が続いており、減少幅が拡大している。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルおよび半導体素子はこのところ減少傾向にあり、産業向け液晶パネルは長期低迷が続いている。

なお、4-6月期は前年同期比1.1%の増加、今年上半期は同0.2%の増加となった。



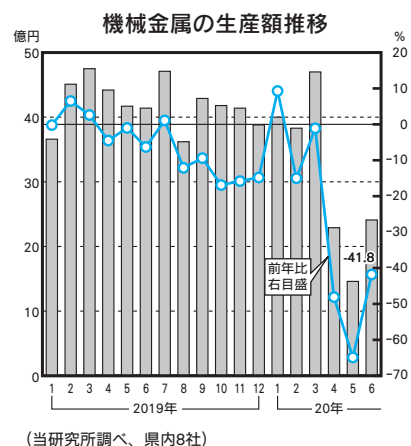
機械金属

生産額、前年比大幅減続く

6月の生産額は前年比41.8%減となり、前月からはやや戻したものの、大幅減が続いている。

ウエイトの高い輸送機械において、新型コロナウイルス感染拡大の影響等による販売低迷が長引いており、依然厳しい状況が続いている。その他の民需関連では、製鋼品、建機部品は堅調に推移しており、金型は一進一退の動きが続いている。公共工事関連では、橋梁・鉄骨は回復傾向にあるものの、水道部品は減少が続いている。

なお、4-6月期は前年同期比51.5%の減少、今年上半期は同27.1%の減少となった。



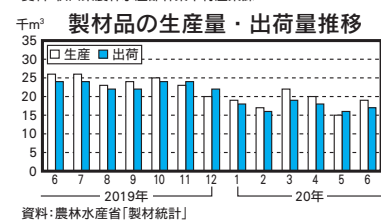
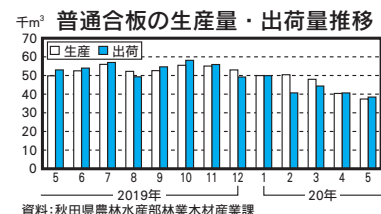
木材業

荷動き低迷と生産調整続く

全国的に、新設住宅着工戸数の減少が続く中、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう営業活動の縮小や需要回復の遅れから、荷動きの低迷とメーカーの生産調整が続いており、本県においても同様の動きが窺える。

5月の普通合板は、生産量が前年比25.0%減と3か月連続で減少し、出荷量も同27.5%減と8か月連続で前年を下回った。在庫量は同36.1%増と4か月連続で前年比増加した。

6月の製材品は、生産量が前年比26.9%減と3か月連続で前年を下回り、出荷量も同29.2%減と5か月連続で減少した。在庫量は同19.6%増と10か月連続の二桁増となった。

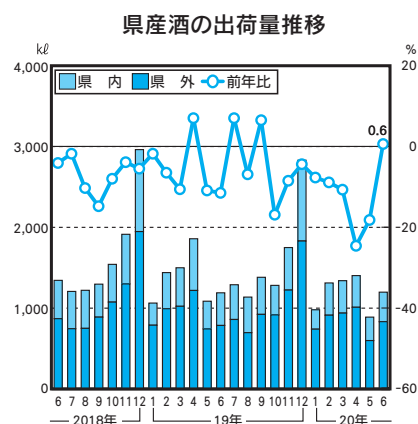


酒造業

出荷量、9か月ぶりに前年比増加

6月の清酒出荷量は、前年比0.6%増となった。前年に天候不良の影響により落ち込んだ反動などから、9か月ぶりに前年を上回った。出荷先別では、県内向けは同9.7%減、県外向けは同5.9%増となった。県外の主な出荷先別では、北海道は同3.2%減、東京も同1.8%減と減少したが、東北5県が同4.5%増、その他も同17.8%増と増加した。

種類別では、普通酒は前年比2.2%増となったが、特定名称酒は同0.9%減となった。特定名称酒の内訳では、吟醸酒は同8.9%増と増加したが、純米酒が同8.8%減と減少したほか、本醸造酒も同15.9%減と前年比二桁減となった。



建設業

公共工事 国、県、市町村等が増加し、5か月連続で前年比増加

6月の公共工事請負金額は、国や県、市町村等が増加し、前年比24.9%増と5か月連続で前年を上回り、年度累計でも、前年同期比20.5%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の6月の新規受注額は、前年比3.6%増の2,403百万円と7か月ぶりに前年を上回った。うち官公庁工事は、建築が振るわず同18.7%減と前年を下回ったが、民間工事は、土木でJR関連の大口受注などがあり、同120.4%増と伸びた。ただし、4月からの年度累計では、前年同期比21.0%減と前年実績を依然下回っている。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	6月	前年比	4～6月	前年同期比
件数	368	1.7	877	△1.0
請負金額	19,953	24.9	63,331	20.5

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	6月	前年比	4～6月	前年同期比
官公庁	1,583	△18.7	4,846	△21.2
民間	820	120.4	1,482	△20.2
合計	2,403	3.6	6,328	△21.0

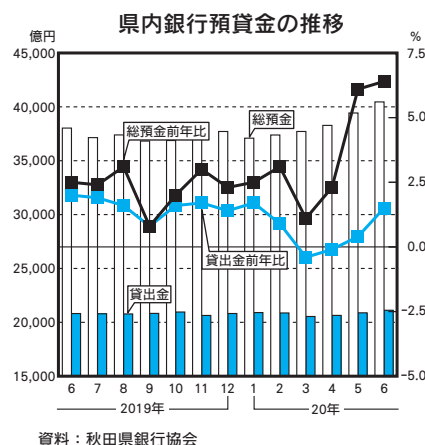
(当研究所調べ、県内12社)

金融

預金、貸出金とも前年比増加

6月末の県内銀行の預金は、前月末比1,028億円増加し、前年比でも6.4%の増加となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響から政府による給付金の支給や一部企業で手元資金を厚くする動きがみられたことを反映し、高い伸びが続いている。貸出金は、前月末比237億円増加し、前年比でも1.5%の増加と2か月連続で前年を上回り、伸び率も前月に比べ拡大した。

6月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は5件(前年比3件増)、負債総額は8億2,400万円(同449.3%増)となった。負債総額は鹿角市の宿泊業者の負債額約5億円が押し上げた。



住宅着工

着工戸数、3か月ぶりに前年比増加

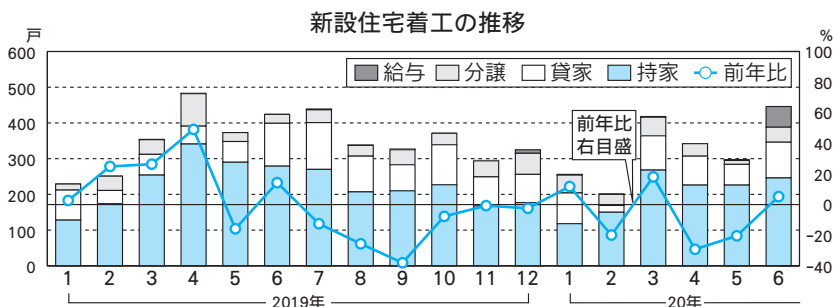
6月の県内新設住宅着工戸数は、446戸（前年比22戸増、5.2%増）であった。主力の持家、貸家が減少したものの、分譲住宅が増加したほか、給与住宅の着工（能代市56戸、由利本荘市2戸）があり、3か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別では、持家が246戸（前年比33戸減）、貸家が100戸（同20戸減）、分譲住宅42戸（同17戸増）、給与住宅58戸

（同58戸増）となった。

持家は、3か月連続で前年を下回った。貸家は、前年比横這いを挟んで4か月ぶりに前年を下回った。分譲住宅は、3か月ぶりに前年を上回った。

地域別では、県北は給与住宅、県央は貸家、分譲住宅、給与住宅の着工が各々増加し、前年を上回った。県南は持家の着工が減少し、前年を下回った。



住宅着工動向

(単位：戸、%)

区分	2020年6月	前年比	20年1～6月	前年比
県北	130	15.0	419	△5.8
県央	229	3.6	1,082	△1.5
県南	87	△3.3	459	△19.6
合計	446	5.2	1,960	△7.3

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

弱い動き

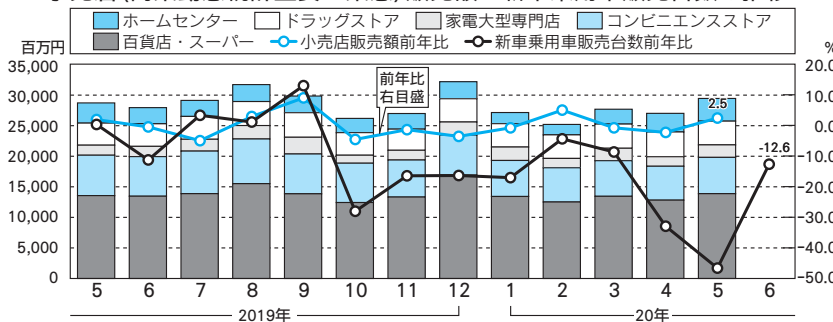
5月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、合計で前年比2.5%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。コンビニエンスストア（同10.1%減）で減少したものの、家電大型専門店（同24.3%増）、ドラッグストア（同7.6%増）、ホームセンター（同12.4%増）などで増加した。

百貨店・スーパー販売額（全店）は、前

年比2.3%増となった。衣料品は全般的に振るわず、同23.1%減と大幅に減少したものの、飲食料品では巣ごもり需要の増加などにより同5.7%増となった。

6月の新車乗用車販売台数は、前年比12.6%減の2,688台となった。登録車、軽乗用車ともに減少し、9か月連続で前年を下回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



6月の新車乗用車販売台数（単位：台、%）

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,688	△12.6
登録車	1,469	△19.1
普通車	627	△22.0
小型車	772	△15.3
輸入車	70	△30.0
軽乗用車	1,219	△3.3

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）（単位：%）

区分	3月	4月	5月
①消費者物価指数	0.0	△0.4	△0.6
②勤労者名目賃金	△1.5	△1.9	△2.5

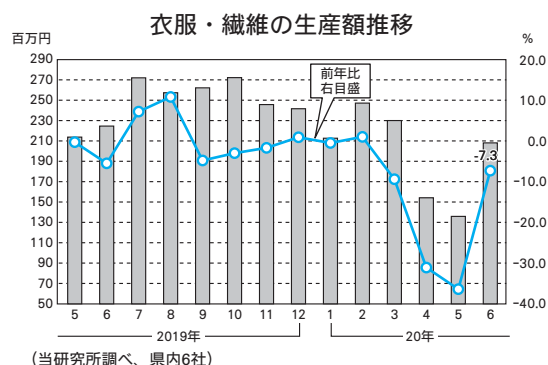
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、4か月連続で前年比減少

6月の生産額は、前年比7.3%減となった。前月から減少幅は縮小したものの、4か月連続で前年を下回った。

受注は、小ロットながらも秋冬物への切り替えが進んでいるほか、医療・衛生関連用品の増加により、11か月ぶりに前年を上回った。



雇 用

有効求人倍率は 1.24 倍、6か月連続で低下

6月の有効求人倍率は、前月比0.04ポイント低下の1.24倍となった。常用の内訳では、一般は前月比0.04ポイント上昇の1.21倍、パートは同0.01ポイント上昇の1.05倍となった。求人が求職を上回って推移しているが、新型コロナウイルス感染症の影響から改善の動きが弱まっている。

新規求人数は前年比6.9%減となり、14か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同21.4%減となった。「木材・木製品」で増加したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」、「電気機械器具」などで二桁の減少率となった。非製造業は同業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

5.5%減となった。「情報通信」、「医療、福祉」で増加したものの、「生活関連サービス、娯楽」、「運輸、郵便」、「サービス」などで二桁の減少率となった。

新規求職者数は前年比0.6%減と、9か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は、前年比66.9%増となり、3か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県央で増加したものの、県北、県南で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.33倍、県央が1.15倍、県南が1.01倍となった。

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区 分		2020年3月 4月 5月 6月			
有効求人倍率	常 一 般	1.24	1.19	1.17	1.21
	パートタイム	1.41	1.18	1.04	1.05
	全数（季調済）	1.37	1.34	1.28	1.24
事業主都合離職者数		222	770	356	409
前 年 比		△3.9	72.6	27.1	66.9

6月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

区 分		新規求人数		有効求人倍率	
		前年比		前月比	
県 北	1,619	△8.6	1.33	0.08	
県 央	4,465	10.5	1.15	0.03	
県 南	1,586	△24.8	1.01	△0.02	
合 計	7,670	△3.2	1.15	0.02	

(注) 臨時・季節を除く。

区 分		2020年5月	前年比	6月	前年比
新 規 求 人 計		6,485	△22.1	8,262	△6.9
主 要 業 種 の 内 訳	製 造 業	530	△35.2	615	△21.4
	食 料 品	114	△8.1	104	△18.8
	織 維	105	△39.0	171	△17.0
	木 材 ・ 木 製 品	18	△69.5	26	8.3
	電子部品・デバイス・電子回路	39	△47.3	31	△54.4
	電気機械器具	12	△74.5	23	△41.0
	情報通信機械	16	△23.8	3	△25.0
	非 製 造 業	5,955	△20.7	7,647	△5.5
	建 設	1,087	15.8	1,125	△3.3
	情 報 通 信	33	△52.9	69	64.3
内 訳	運 輸 ， 郵 便	340	△17.3	206	△33.8
	卸 売 ， 小 売	1,174	△18.8	1,205	△10.8
	宿泊・飲食サービス	534	△56.5	1,326	△0.2
	生活関連サービス、娯楽	170	△56.4	269	△36.3
	医 療 ， 福 祉	1,383	△2.6	1,827	9.1
	サ ー ビ ス	562	△33.4	792	△18.3
新 規 求 職 者 数		3,784	△16.4	3,792	△0.6
有 効 求 職 者 数		16,593	△4.8	16,504	△0.9

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む。